



水道産業新聞社

大阪本社 電話(06)6372-3603
FAX(06)6372-3533
〒511-0072大阪府北区豊崎3-7-9
東京本社 電話(03)6435-7844
FAX(03)3438-0025
〒105-0003東京都港区西新橋3-5-2

下水処理などの塩素消毒がノロウイルスの進化に影響を与えたとが明らかになり、ノロウイルスの水を介した感染防止や新型の出現確率の低下効果があつたとがわつた。東北大学大学院環境科学研究科の佐野大輔・准教授や、同大学院工学研究科・北海道大学・豊橋大学・長崎大学・北里大学の共同研究により世界で初めて証明された。

東北大・佐野准教授らの研究で明らかに

これまで塩素消毒を行うことで、水を介してノロウイルスの感染を防ぐ行でなく、遺伝的な多様性を低下させ、新型の出現確率を下げることが可能になるといふ。

また、適切な汚水処理施設が普及していない途上国が、新型ノロウイルスの出現場となつていて、国連の持続可能な開発目標にある「汚水処理施設の全世帯への普及」に積極的に取り組むことが、新型ノロウイルスの出現を防ぐ、日本国内への輸入感染源の可能性を低減する効果があるといふ。

佐野准教授は「水処理工場・浄化槽及集落排水処理施設など処理水を十分に消毒することが、ただちに微生物学的に安全な水を作り出すことだけでなく、危険な新型病原体の出現を回避するに繋がると言える。水の消毒関連技術の開発や普及を日本国内のみならず全世界的に展開していくことが重要で、ビジネスにおける一つの視座として捉えていただければ」とコメントしている。

研究内容はアメリカ微生物学会が発行する雑誌「Applied and Environmental Microbiology」(2018年4月20日)に掲載されている。

塩素処理がノロウイルス新型の出現確率下げる